

第1章

当たり前のことを確実に実践！
プロが大切にしている基本はコレ

エレキ屋の証明！ 「はんだ」の基礎知識

漆谷 正義 Masayoshi Urushidani

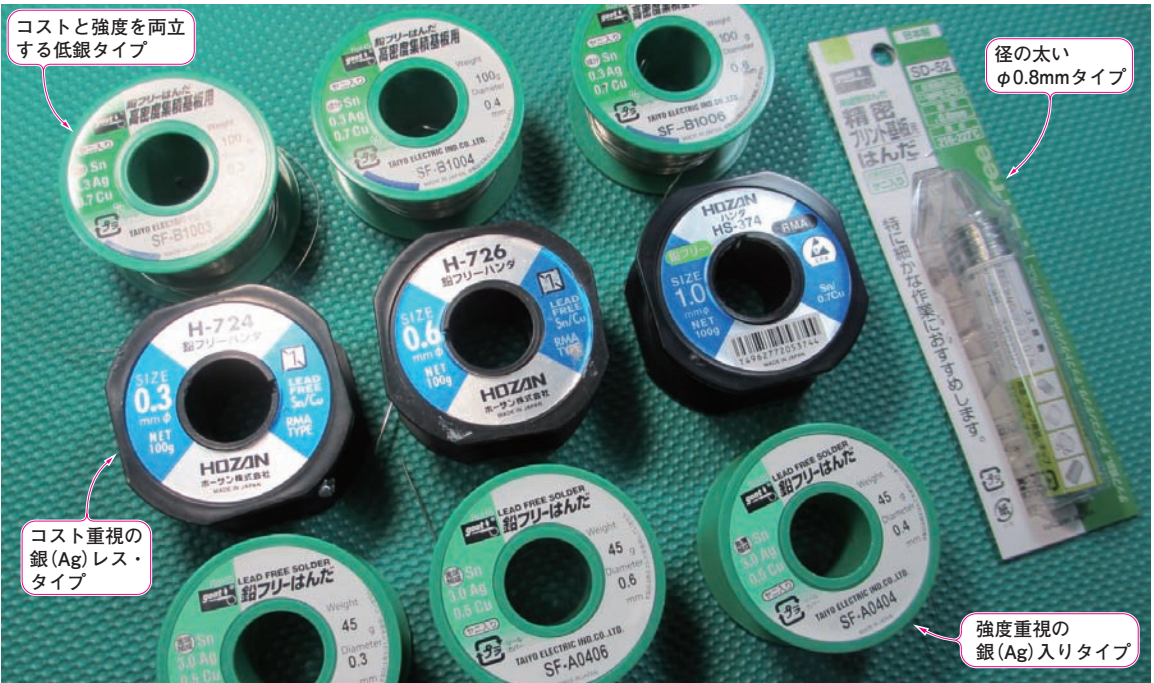
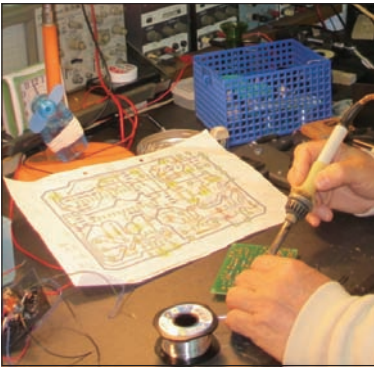


写真1 鉛フリーはんだのいろいろ
太さや組成が異なる。芯にフラックスを含むヤニ入りタイプ

ラズベリー・パイやArduinoに代表されるように、名刺サイズの小型・高性能な電子回路が、5,000円以下で入手できるようになりました。これらは単体でも楽しめますが、基板上の拡張端子にLEDや温度センサなど、さまざまな電子部品をつなぐと、できることが無限に広がります。

電子部品をつなぐものは、のりやセメダインなどの接着剤ではありません。部品の足などの金属同士をしっかりくっつける「はんだ付け」をします。この方法さえ覚えてしまえば、電子工作は8割方できたも同然です。電子工作ができれば、どこのお店にも売っていない、自分だけの「もの」が製作できます。

本特集では、はんだ付けの技術を紹介します。本誌記事と付録のDVD-ROMに収録した動画で、初めて

の人でも安心な内容になっています。

鉛フリーを攻略しておく

● 電子工作といえども鉛入りはんだと決別すべし
共晶はんだを筆頭とする鉛入りはんだが姿を消すのは、もはや時間の問題です。早く鉛フリーはんだに切り替えて、技術的に遅れを取らないようにしたいものです。

だからと言って簡単に鉛フリーはんだに切り替えることもできません。はんだ付けが難しいためです。60年の経験がある私でも、鉛フリーはんだを初めて扱ったときには素人同然の技量に落ちました。共晶はんだを店頭で追い求める私の姿は、まるで麻薬中毒の患者